



1. 第1回 ITER 理事会が開催

2007年10月24日に ITER 協定が発効し、その約1か月後の11月27日に、第1回 ITER 理事会が、フランス・カダラッシュにおいて開催された(写真1参照)。はじめに、ヴェルナー・ブルカート博士(IAEA 事務次長)より開会の挨拶が述べられ、続いて、クリストファー・ルウェリン・スミス卿(欧州原子力共同体核融合計画諮問委員会(CCE-EU)議長)が ITER 理事会議長に選出され、アカデミシャン・エフゲニー・ベリホフ(ロシア・クルチャトフ研究所総裁)が副議長に指名された。続いて、池田要氏が ITER 機構長に、ノルベルト・ホルトカンブ氏が首席副機構長に指名された。さらに6名の副機構長も指名された。その後池田機構長より、2007年7月の ITER 暫定理事会以降のプロジェクトの進捗状況について報告があった。とくに昨年末から行われてきた ITER 設計レビューが成功裏に完了したことに対して、ITER 理事会より謝意が述べられた。最後に、ルウェリン・スミス議長より次のような締めくくりの言葉が述べられた：「この第1回 ITER 理事会はプロジェクトの大きな節目である。設計レビューでは、今後いくつかの設計変更や選択についてさらに検討する必要があるが、おおむね ITER の設計が健全であることが示された。今や ITER はサイトでの建設作業を開始し、主要な機器を調達する段階に達している。」

2. ITER トロイダル磁場コイル導体の調達取決めに署名 第1回 ITER 理事会の翌日、カダラッシュにおいて、池



写真1 第1回 ITER 理事会がカダラッシュで開催(写真は ITER 機構提供)。

田要 ITER 機構長と日本の国内機関である日本原子力研究開発機構の長岡鋭国際部長が ITER トロイダル磁場コイル導体の調達取決めに署名し、我が国が調達を分担するトロイダル磁場コイル導体(全長約22km)の調達取決めに締結された(写真2参照)。今回の調達取決めの最初のものであり、これにより、ITER 計画は建設段階へ大きな一歩を踏み出した。トロイダル磁場コイル用ニオブ・スズ超伝導体は参加7極のうち日欧露米韓中の6極が分担して製作する。その全重量は約400トンに達し、このような大規模な超伝導体の調達は歴史上前例がなく、導体の製造プロセスにおける性能評価や品質管理がとくに重要となる。次の段階の調達取決めで扱うが、6極が製作する導体を用いて、スペアを含めて全部で19個のトロイダル磁場コイル巻線を製作する。18個の巻線のうち日本は9個を製作し、残りの9個とスペア1個を欧州が製作することになっている。

3. ITER 本部協定が締結

2007年11月7日、池田要 ITER 機構長とフランス政府を代表してバレリー・ペクレセ高等教育・研究大臣が ITER 本部協定に署名した。本協定は、フランスにおける ITER 機構の法律上の地位を確立するものであり、具体的には ITER 機構に与えられる特権および免除に関する規定等が定められている。

(日本原子力研究開発機構 核融合研究開発部門)



写真2 ITER トロイダル磁場コイル導体の調達取決めに締結。